

事業群評価調査(平成30年度実施)

基本戦略名	1 交流を生み出し活力を取り込む	事業群主管所属	文化観光国際部世界遺産課
施策名	(1) 2つの世界遺産等を活用した観光地づくりと誘客拡大	課(室)長名	村田 利博
事業群名	① 価値を正確に伝え守る仕組みづくりの推進	事業群関係課(室)	観光振興課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)							(取組項目)			
世界遺産登録に伴い増加が見込まれる来訪者に対し、その価値の理解増進対策や文化財としての保全対策などを講じる必要があります。特に祈りの場である教会堂へは十分な配慮を行いながら、秩序ある公開・広報の実現に向けて取り組みます。 一方、産業革命遺産については、8県11市に資産が分布しており、生産活動を行う民間企業の資産が含まれていることから、国や関係県市、資産所有企業等と連携した取組を進めます。							i) 世界遺産としての価値を伝え守る仕組みづくり ① 信仰の場を守るため、教会守の配置や教会堂見学の事前連絡による受入の調整を行う。 ② 価値を深め、伝え、将来に向けて守っていくため、調査研究や情報発信、意識醸成のための機能を整備する。 ③ 構成資産以外のキリスト教関連資産について、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連歴史文化遺産群」としてウェブサイトを通じた情報の発信を行う。			
事業群	来訪者理解度	指標	基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
		目標値①	/	70%	75%	80%	85%	90%	90% (H32)	
		実績値②	-	-	-	/	/	/	進捗状況	
		②/①	/	-	-	/	/	/	-	世界遺産への登録は平成30年度を予定しているため、平成29年度は、イベントや講座等の参加者へのアンケート調査を実施し、理解度の把握に努めた。世界遺産登録後については、来訪者へのアンケート調査を予定している。

2. 29年度取組実績(H30新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				29年度事業の成果等	中核事業	
				H28実績	うち一般財源	人件費(参考)			指標	主な目標	H28目標	H28実績			達成率
				H29実績	H30計画	H29目標					H29実績				
1	取組項目 i	世界遺産情報発信事業費	H19-	32,275	26,507	16,084	県民	推薦書の再提出後、新たな価値の周知及び世界遺産登録に向けた気運醸成のため、総合ポータルサイトの開設やDVD等を作成、出前講座の実施、及び海外でのブース出展など、各種イベント等でパンフレットや啓発グッズを作成・配布した。	活動指標	世界遺産としての価値を伝えるためのパネル展や講座等のイベントへの参加者数(人)	1,000	1,470	147%	県内外で開催されている展示イベント等への積極的な参加、及び出前講座により、多数の方に情報発信を行うことができた。	○
				54,645	32,440	16,092					6,000	15,056	1505%		
				39,535	28,568	15,992					90	94	104%		
2	取組項目 i	世界遺産受入体制整備促進事業費	H26-31	6,432	6,432	8,042	NPO法人長崎巡礼センター	「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録に向け、ツアー客の受入(ガイド手配)やガイド養成等の受入体制の向上を図る取組を支援した。	活動指標	ガイド養成講座開催数(回)	4	4	100%	旅行会社や巡礼視察団等の依頼による様々なプランに対応するガイドの手配や、個別地域のガイドや広域に跨るスルーガイドの養成等の受入体制整備を進めることができた。	
				6,455	6,455	4,828					4	5	125%		
				6,650	6,650	4,798					4	4	100%		
		観光振興課						成果指標	H28:ガイドの会(巡礼地含む)でガイドした観光客数(人)	61,000	44,195	72%			
									H29:ガイドを手配した観光客数(人)	5,500	6,052	110%			
										7,000					

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 世界遺産としての価値を伝え守る仕組みづくり	
<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産登録後は、来訪者の増加が見込まれるため、引き続き教会見学時の事前連絡の周知徹底を行う必要がある。 ・ターゲットや伝える内容に応じて、効果的に情報を発信できるように、適宜設定を見直すことが重要である。 ・関係県市町と役割に応じた適切な対応を行う必要がある。 ・情報戦略に基づき、各種ツール及び実施機関により情報の違いが出ないように、統一的な運用が必要となる。 	

4. 30年度見直し内容及び31年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	30年度事業の実施にあたり見直した内容 (H30の新たな取組は「H30新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	31年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目1	世界遺産情報発信事業費	世界遺産登録年にあたり、「情報戦略のあり方」を見直す。次世代の構成資産保護を担う若年層や子供をターゲットにした取組の推進、シンボルマークの活用やサイン(看板)の整備、民間とのタイアップイベント開催などにより、保存管理・活用に向けた意識醸成を図る。	-	県内外に、世界遺産としての価値をしっかりと伝えとともに、構成資産の保存管理・活用を推進するための事業を推進する。	現状維持
2		世界遺産受入体制整備促進事業費	これまでの巡礼ガイドの育成により、一定のガイド数(H27~29で84名を認定)は確保できたが、本年7月の潜伏キリシタン関連遺産登録による観光客の増加に備え、H30年度も引き続き認定ガイドの確保、及びガイドスキルの向上に主眼を置いた研修を実施する。	②	潜伏キリシタン関連遺産の真の価値を伝えるには、ガイドの果たす役割が重要であるが、実働できるガイドの不足や高齢化による将来の担い手不足などの新たな課題も生じているため、30年度中に関係者との意見交換を重ね、31年度に向けた方向性を検討していく。	改善

注:「2. 29年度取組実績」に記載している事業のうち、H29年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点